



# なのはな通信

25年度 六ツ美中部小学校

校長室だより No. 14

平成 25 年 12 月 20 日

## がんばりぬく心をはぐくむ持久走 十二月五日(木)

風のない絶好の晴天に恵まれ、無事にマラソン大会を終えることができました。それぞれの学年の男女別に行われたマラソン大会は、応援に来てくださった保護者の方々からの大きな声援に後押ししてもらい、一人一人が最後まであきらめずに全力を尽くしてゴールしました。

頑張った子どもたちのために、おいしいお汁粉を準備してくださったPTA役員さんに、大きな声でお礼を言っていました。最後まで応援していた役員さん以外にも、味わっていたいただきましたが、初の試みで、遠慮された方が多かったようでした。

給食の食べ残しが多くなるないようにするために、お代りはできませんでしたが、疲れを取るのに甘いお汁粉はともありませんでしたが、疲れを取る持久力を高め、健康で強い体を作るためには、走ることは最適です。スポーツの基本は、下半身を鍛えることであり、幸せな人生を過ごすことにも繋がります。元気に走ることができる喜びを感じ、走り続けていきたいものです。

「継続は、力なり」



カいっぱいがんばるちゅうぶつ子



おいしいおしるこをいただきました

## 子ども祭り

主催 六ツ美中部学区子ども会

後援 六ツ美中部学区子ども会育成者連絡協議会  
六ツ美中部学区社会教育委員会

中日新聞牧野新聞店

十一月二十四日(日) 本校体育館で、

「子ども祭り」が行われました。

ゲームコーナーでは、さまざまな景品が用意されていました。明生クラブの囲碁や将棋をしたり、おいしい食べ物を食べたり、特別出演の「おかざえもん」に触れたりして、楽しいひとときを過ごしました。

## (いじめの禁止)

第四条「児童等は、いじめを行ってはならない。」

本年、九月より「いじめ防止対策推進法」が施行されました。「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む)であって、当該行為の対象となった児童生徒が「心身の苦痛を感じているもの」と定義されました。

児童だけではなく、教師にも保護者にもその責務が明示されました。大津市の中二男子自殺事件を契機に大きく法律により処罰の対象になるということです。

今後、県、市教育委員会から具体的な方針が示されます。本年度内に、学校においても「六中小いじめ防止対策委員会」(仮称)の設置が義務付けられます。先ず、身近な大人が子どもの声をきちんと「聴く」(耳と目と心で聞く)ことがもっとも大切なことです。



## 研究発表会をふりかえって ～ESDプロジェクトの推進～

二〇一三年をふりかえると、地域講師の皆様や企業の方々にも、環境に関するさまざまなことを教えていただいたことが、大変心に残っています。

一年生は、今年も「おかさき農遊会」の林悟朗様に指導していただき、さつまいも栽培をしてきました。猛暑のために育つか心配もしましたが、とても大きなものが収穫できました。十二月十二日に「おいもパーティー」を開き、中保育園児との交流を深め、楽しいゲームでESDの一步を始めました。

二年生は、五年生といっしょに、二村さんと成瀬さんを招いて「お米パーティー」を開き、劇やクイズで感謝の会を催しました。二村さんには、もう十八年間お世話になっていきます。

また、学区を探検して、洋蘭園の山崎様、養鶏の瀬戸様、碧の会の村田会長様にもお世話になりました。

三年生は、坂左右町の都筑様のナスハウスの見学に行き、「千両ナス」作りの苦労やハウスの工夫を調べて、生産者とふれあいドームで販売する側の努力や消費者側の立場になった話し合いを進めてきました。

四年生は、循環型社会の学習を進め、ごみ

処理をどうするか考えました。市のクリーンセンターやサンポーさんの見学をはじめ、繊維関係の石川敏夫様や蜂須賀隆之様には、衣類の再利用を教えてください、子どもの学びに火がつけました。フリーマーケットを開き、その収益金をフィリピンの被災地に送ろうと行動しました。4年2組は、自分ごととして世界の

問題に目を向けてくれました。また、アイシンAWの環境教室では、相手の気持ちになって考える「愛・シンパシーゲーム」を通して、学習を深めました。



いつもありがとうございます。  
二村さん

五年生は、地域の農業と工業に視点を当て、六ツ美ライスセンター、マキタ、フタバ産業を見学し、三菱自動車の話を聞き、安全性や環境に配慮している企業の努力を調べ、友だちの考えを聞いて、自分の考えを根拠を示しながら発言できるように話し合いました。また、地域の自然にも目を向け、絶滅危惧種とされるクロメダカの生息から生き物がすみやすい環境を自分たちが積極的に守っていくことの大切さに気づきました。矢作川水族館長の阿部夏丸さんの話からは、多くのことに気づかせてもらいました。

六年生は、JA営農課の伊奈修課長様、六ツ美商工会長の市川文勇様、高橋町の元市議会議長の伊奈義兼様、ふれあいドームの店長様、児童の保護者や家族の皆様

に話を聞いて「六ツ美中部の未来について」考えてきました。豊かさとは何かを考え、真剣に話し合った経験は、きっと六ツ美の未来の担い手として、強く生き抜いてくれるだろうと思います。地元を愛し、誇りに思えるふるさとにしてくれることを願っています。



5年生電気自動車の試乗



4年生アイシン環境教室